

授業科目名	日常生活援助論		担当教員	◎鶴沢 淳子、有家 香、 中川 泰弥、新川 実穂	科目ナンバリング
必修	開講年次：1年後期	単位：2単位	授業形態：演習60時間		NF152

【授業概要】

基礎看護技術に必要な知識・技術・態度の視点から観察技術、感染予防技術、クライアントの環境の整備やプライバシーの保護、身体の清潔、睡眠、移動、衣生活、食事、排泄などの日常生活援助技術を修得する。また援助に伴う患者の心理を考慮した援助方法についての学びを深める。

【達成目標】

1. 日常生活に必要な基礎的生活援助技術とそのエビデンスを学習し、対象に合わせた日常生活行動への支援を修得する。
2. 看護技術の原理・原則を理解し、日常生活行動に関わる基本的技術を安全・安楽に実施する技術を修得する。
3. 看護技術を行う上での感染予防の技術を修得し、その根拠を説明することができる。
4. 看護技術を実施する上で必要な観察技術を身につけ、実施することができる。
5. 日常生活援助を受ける患者の心理状態を考え、患者に配慮した態度について考えることができる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 日常生活論とは	(鶴沢)
[02] 環境を整える	(鶴沢)
[03] 演習：環境整備①(ベッドメイキング)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[04] 演習：環境整備②(環境整備とシーツ交換)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[05] 講義：バイタルサインとは①	(鶴沢)
[06] 講義：バイタルサインとは②	(鶴沢)
[07] 演習：バイタルサインの測定①(血圧測定の実際)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[08] 演習：バイタルサインの測定②(バイタルサイン測定の実際)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[09] 演習：課題演習「臥床患者のシーツ交換」①	(鶴沢・有家・中川・新川)
[10] 演習：課題演習「臥床患者のシーツ交換」②	(鶴沢・有家・中川・新川)
[11] 演習：技術チェック	(鶴沢・有家・中川・新川)
[12] 講義：安楽の援助	(鶴沢)
[13] 講義：睡眠と休息	(鶴沢)
[14] 演習：体位変換	(鶴沢・有家・中川・新川)
[15] 演習：車いす・ストレッチャーへの移動・移送	(鶴沢・有家・中川・新川)
[16] 講義：清潔の援助	(鶴沢)
[17] 演習：寝衣交換	(鶴沢・有家・中川・新川)
[18] 演習：全身清拭①	(鶴沢・有家・中川・新川)
[19] 演習：全身清拭②	(鶴沢・有家・中川・新川)
[20] 演習：洗髪①	(鶴沢・有家・中川・新川)
[21] 演習：洗髪②	(鶴沢・有家・中川・新川)
[22] 演習：部分浴(手浴・足浴)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[23] 講義：食事の援助	(鶴沢)
[24] 講義：排泄の援助	(鶴沢)
[25] 演習：排泄の援助①(尿器・便器の使い方、おむつ交換)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[26] 演習：排泄の援助②(陰部洗浄)	(鶴沢・有家・中川・新川)
[27] 演習：技術チェック①	(鶴沢・有家・中川・新川)
[28] 演習：技術チェック②	(鶴沢・有家・中川・新川)
[29] 演習：課題演習「排泄の介助」	(鶴沢・有家・中川・新川)
[30] 演習：課題演習「排泄の介助」	(鶴沢・有家・中川・新川)

【教科書】

- 1) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版。
- 2) 松尾ミヨ子他編者(2022)：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版。

【参考書】

- 1) 竹尾恵子監修(2019)：看護技術プラクティス 第3版 学研メディカル秀潤社。
- 2) 医療情報科学研究所 編(2014)：看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア。
- 3) 志白岐康子他編集(2017)：基礎看護学③ 基礎看護技術、MC メディカ出版
- 4) 阿曾洋子他 著(2011)：基礎看護技術 第7版、医学書院
- 5) 有田清子他 著(2017)：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ，第17版、医学書院。
- 6) 深井喜代子他 編(2017)：新・基礎看護生理学テキスト，南江堂
- 7) 深井喜代子他 編(2019)：改訂第2版基礎看護学テキスト EBN 志向の看護実践，南江堂。
- 8) 深井喜代子他 編(2020)：新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護学Ⅰ，第4版、メヂカルフレンド社。
- 9) 深井喜代子他 編(2020)：新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護学Ⅱ，第4版、メヂカルフレンド社。
- 10) ナーシング・サプリー編集委員会(2020)イメージできる解剖生理学メディカ，メディカ出版。

* その他講義中に適宜提示

【評価方法・評価基準】

演習課題の評価(70%)、技術チェック(30%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に提示された事前課題を行ない、該当単元に必要な基礎的知識を修得する。(1～2時間)

事後学習：授業で使用した資料をもとに演習の自己練習により、振り返りによる自己評価と自己の課題を明確にする。(2～3時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ、根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各演習で提出した課題レポートについては、教員のコメントを入れ、授業終了後に返却する。

【備考】

- ① 看護学概論、基礎看護学技術論での学びをもとに患者に行われる日常生活上展開される援助技術の根拠を明確にし、基本技術を身につける。
- ② 療養生活を送る患者の身体・心理的側面を行われる看護技術の中に反映し、臨床経験の知識をもとに身体的でわかりやすい方法で教授する。